

## 義肢・装具・座位保持装置製作にかかる所用費用についての研究<sup>1</sup>

我澤賢之、山崎伸也、井上剛伸

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

### 研究要旨

本研究では、義肢・装具・座位保持装置（以下、義肢等）の補装具供給にかかる事業者を対象に、現行制度下の採算状況ならびに所用費用状況について調査をおこなった。結果として、義肢等供給事業者のうち相当数（調査該当雪面についての有効回答の約3割）が赤字に直面していること、個別の補装具製作に要する費用についても現行制度の想定額より実際の額のほうが高い可能性があることが示された。とくに、人件費単価（時給）については、想定額より実際の額のほうが統計的に優位に高いことがわかった。また、装具の素材費等、調査結果が総定額を大きく上回っているものが見られ、基本工作法の内容が現状と制度の間で大きく変わっている可能性が示唆された。現行制度の義肢等以外の補装具についても、一部のものについて現行制度の総定額（交付基準額）のもとで、採算の厳しい可能性が示された。

---

<sup>1</sup> 本調査研究は平成20年度厚生労働科学研究費の助成（「経済学的手法による補装具の価格構成に関する研究」）を受けておこなわれた。また調査の実施にあたっては、厚生労働省、社団法人 日本義肢協会、有限責任中間法人 日本車いすシーティング協会の団体事務局およびメンバーの皆様、そのほか調査にご回答いただいた事業所の皆様にご協力をいただいた。残存する誤りはすべて筆者によるものである。